

「海の日プロジェクト in 青海」にて  
海事 PR ブース出展と教員向け商船見学会を実施  
～海事産業について楽しみながら学ぶ～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性や魅力を広く一般の皆様にご覧いただくための広報活動を全国各地で開催しております。

今般、7月15日（月・祝）の「海の日」に、内閣府総合海洋政策本部・国土交通省・日本財団の共催にて「海の日プロジェクト in 青海<sup>\*1</sup>」が東京国際クルーズターミナル（東京都江東区）において開催されました。当協会は、会員会社の協力も得て、海運をはじめとする海事産業の魅力を紹介するブースを出展するとともに、小中学校の教員を対象とした自動車船の見学会を実施しましたので、その模様をお知らせします。

海事 PR ブースでは、当協会が実施している海運 PR 「“開運”じゃなくて、“海運”です。」のポスターを掲示。また、①7月9日より開始した海の日「海運」X キャンペーンと連動した「海運ミニ袋」プレゼント企画、②海運に関連したクイズの実施、③「船と貨物」の輪投げコーナー（衣食住に必要なモノがどのような船で運ばれているかを楽しく学ぶ）④VR 動画視聴コーナー（「巨大船冒険ナビ 自動車運搬船の巻<sup>\*2</sup>」を VR ゴーグルで視聴する）を設置しました。VR 動画視聴コーナーについては今回初の試みで、VR ゴーグルを通して自動車船の内部を興味深く見学する子どもたちの姿が印象的でした。



輪投げの様子



VR 動画視聴コーナーの様子

その他、川崎汽船の船舶模型の展示や同社の環境負荷低減の取り組みを紹介する映像の上映等も実施し、特に精巧な船舶模型は来場者の目を惹いていました。



船舶模型展示の様子



左から土屋副会長、明珍会長、篠原理事長

子どもたちからは「VR ゴーグルで船内を見るのは楽しい」、保護者からは、「商船の種類がこんなにたくさんあるとは思わなかった」「接岸している自動車船の大きさに驚いた」「船が貿易量の99%以上を運んでいるとは驚いた」といった声が聞かれました。

この他、各種資料やノベルティ等も配布し、海運と海運に関わる海事産業の周知に努めました。



自動車船見学の様子



船倉でのデモンストレーションの様子

加えて、商船三井の協力のもと、小中学校の教員25名を対象に自動車船「TURQUOISE ACE」の船内見学会を実施しました。全長約200m・高さ約52mの巨大な船に乗り込み、ブリッジ（船橋）や船内居住区エリア、船倉（貨物スペース）での車の積み付けデモンストレーション等を見学した教員からは、「実際に船を見学することで、船をより身近に感じることができた」「今回学んだことを更に深め、子どもたちに伝えたい」等の声が聞かれました。

なお、当協会は同日に愛知県豊橋市で開催された「豊橋みなとフェスティバル<sup>※3</sup>」でも出展ブースにおいてノベルティ・資料を配布しております。

当協会は、今後も各海事関連団体と連携しながら、海事関連イベント等でのブース出展等<sup>※4</sup>を通じ、教育の場を含め、より多くの皆様に海事産業の重要性の周知・普及に注力してまいります。

※1 海の日プロジェクト特設ページ URL

<https://c2sea.go.jp/uminohi2024/>

※2 「360°ドキドキ! ワクワク! 巨大船冒険ナビ 自動車運搬船の巻」 URL

<https://www.jsanet.or.jp/bouken-navi/>

※3 豊橋商工会議所ホームページ URL

<https://www.toyohashi-cci.or.jp/event/>

※4 当協会 HP にて海事ブース出展や体験航海等イベント情報を掲載しています。

<https://www.jsanet.or.jp/kaiun/MarineDay/#section3>

以上